

## 青森県立高等学校将来構想検討会議 下北地区部会（第6回）概要

日時：平成27年11月2日（月）

13:30～15:30

場所：田名部高等学校

### <出席者>

下北地区部会委員

相馬 俊二 地区部会長、遠島 進 地区部会副会長、長者久保 雅仁 委員、  
傳法 薫 委員、原 英輔 委員、米持 聡 委員、和田 正顕 委員

### 1 開会

西谷室長から挨拶があった。

### 2 調査検討

各地区の学校配置等に関する基本的な方向性について

#### (1) 地区部会における検討項目と答申の構成（案）等

事務局から、資料1及び資料2について説明した。

#### (2) 第5回地区部会（合同会議）の概要

事務局から、資料3及び資料3附属資料について説明した。

#### (3) 下北地区の学校配置等に関する基本的な方向性

事務局から、資料4について説明した。

地区部会長から、「下北地区の学校配置等に関する基本的な方向性について、資料6にある各委員から事前にいただいた意見に沿って検討を進めたい。」と発言があった。

### 「1 背景」、「2 学校規模・配置の状況」、「3 今後の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み」について

委員から、次のような意見があった。

○ 当検討会議において、県全体の学校規模・配置の方向性について、「通学環境への配慮」と「充実した教育環境の整備」の2点を挙げていることについては、大いに賛成であり、地域の人財を地域で育てるためにも、県教育委員会で具体的な計画を策定する際に、この2点について十分配慮し計画に反映して欲しい。

また、学級数の少ない下北地区において、この学校規模・配置の方向性が平成40年度以降の次の高校改革まで踏襲できるとは思えない。そこで、学

校規模が大きくななくても、ICT等で受験に必要な科目の授業が受けられるよう、学校間の連携を進め、次期高校改革に備えて欲しい。

#### 「4 学校配置等の方向性」について

##### 「(1) 全日制課程の配置等の方向性」

委員から、次のような意見があった。

○ 「総合学科」の記載について、「今後も配置することが望ましい」となっており、「望ましい」という表現には、希望や要望というニュアンスがある。一方、「異なる複数学科を有する高等学校の設置」の記載について、「学校の選択肢を維持するため」となっており、この記載だと、現在下北地区にある普通科、工業科、総合学科の維持が前提となっているように感じ、総合学科の記載にある「今後も配置することが望ましい」とは合わないと思う。例えば、「異なる複数学科を有する高等学校の設置」の記載を「学科の選択肢を維持するため」ではなく「生徒のニーズを踏まえ」にするなど検討した方が良いのではないか。

→ (事務局) 学科の選択肢の維持については、生徒のニーズを踏まえていることが前提であると考えている。文言の整理については、他地区の状況も踏まえ、検討したいと思う。

○ 下北地区では、学級数が少ないことから6学級に満たない場合でも重点校設置については柔軟に対応する必要があると考えるが、「中間まとめ」では、重点校について「6学級以上の規模であることが求められる。」と記載されている。是非とも6学級に満たない場合でも重点校の設置が可能であることを答申に明記していただきたい。

→ (事務局) 西北地区においても、同様に6学級に満たない場合でも重点校設置については柔軟に対応する必要があるという意見である。表現については、答申をとりまとめる段階において、検討したい。

○ 田名部高校は英語科があることから、英語教育の拠点となって英語の指導力向上に取り組んでおり、下北地区の高校、中学校の英語の教員がこの取組に参加している。今後、下北地区の課題となっている数学の指導力向上についても英語と同じような取組や連携が考えられる。

○ 下北地区として重点校に求めることは、この地区に必要とされている医師や弁護士等、この地区の振興に尽力してくれる人財の育成だと考える。

○ 重点校については、それぞれの高校で苦手としている教科の指導的な役割を担うことが求められる。また、重点校と重点校以外の連携について、教科指導に関する連携が考えられるが、教科指導以外の連携については、重点校

以外の高校の取組の独自性が失われる懸念があるため、慎重に検討するべきだと考える。

- 重点校以外の学校において、難関大学へ進学したいという生徒がいた場合、重点校の持っている大学進学に関するノウハウを重点校以外の高校へ伝えるようなシステムが必要だと思う。
- 田名部高校には、色々な学力レベルの生徒が入学している状況であるため、大学進学に関する資料については色々揃っている。現在も他の高校から大学進学に関する問い合わせが来ている状況であり、問い合わせが来た場合にはその都度応じている。重点校は必然的にそのような機能がなければならないと思う。
- 中学生が高校を選ぶ際の参考のため、重点校や重点校以外の学校の在り方や機能、重点校と重点校以外の連携等の仕組みについて、中学生にも分かるようにしてほしい。
- 下北地区だと原子力関係の仕事が多く、仕事をする上で、第2種放射線取扱主任者の資格が必要となる。資格取得のためには、数学や物理の基本的な知識が必要となるが、私が働いている会社では、数学や物理の基本ができていない社員が多いため、数学や物理の基本的な知識について学べる学科があれば良いと思う。
- 下北地区では、むつ工業高校で放射線関係の資格取得に向けた講習や研修会を実施している。  
→（事務局）むつ工業高校では、設備エネルギー科が設置されており、放射線関係の資格取得を目指している生徒に対応した学習環境となっている。
- 下北地区の場合、距離的な問題があるため、他地区の拠点校との連携は難しいところがあるが、他地区の工業科の拠点校との連携を通して、様々な情報を生徒に伝えることは大事である。
- 県内にある工業高校の中で、同じ学科同士の連携として何かあるのか。  
→（事務局）工業高校では、生徒の研究発表会や工業科の教員同士で研修会が行われている。また、農業高校では、例えば、柏木農業高校では、夏休みにりんご栽培農家を講師として招き、県内の農業高校の生徒を集め、これからのりんご栽培や経営についての研修を実施するなど、様々な連携が行われている。
- どのような取組であっても核となる高校が必要となるので、県内に拠点校を設置し、拠点校以外の高校を牽引してほしい。

- 総合学科の記載について、「生徒数の急激な減少や生徒のニーズを踏まえ」とあるが、「生徒数の減少」は既に認識した上での議論であり、それよりも「社会の要請」といった視点が必要なのではないか。
- （事務局）学科を検討する上では、学科に対する生徒のニーズや社会の要請を踏まえた上で検討しているところである。答申をまとめるに当たって、全体的な文言の整理を含め、検討していきたい。
- 総合学科は、生徒が様々な科目を選択し学習できる点が良いところだが、生徒のニーズを把握しにくいという難しい面がある。今後も中学生の選択肢として総合学科を残していくべきだと思うが、生徒のニーズに応えられるように系列を見直していかなければならないと思う。
- 生徒が十分に活動できる施設・設備がないと生徒にとって不利益になってしまうので、異なる複数学科を有する高等学校を設置する場合には、施設・設備の充実が必要になる。

## 「（２）定時制課程・通信制課程の配置等の方向性」

委員から、次のような意見があった。

- 下北地区の定時制は夜間部しかないが、定時制への入学者数は増えている状況である。定時制の入学者の半分以上は不登校や精神的、経済的問題を抱えている生徒であり、昼間部のニーズは高いと考えられる。また、夜間部には脇野沢地域から通っている生徒もおり、帰宅するための公共交通機関がない状況にあるため、昼間部の設置について検討して欲しい。ただし、全日制と定時制が教室を共用していることから、昼間部を設置するには、校舎や教室を新たに確保するという問題がある。
- （事務局）生徒数の減少により全日制の高校の学級数を3から5学級程度減らしていかなければならない状況の中で、昼間部を設置することについては、生徒のニーズを確認し、慎重に検討していく必要がある。
- なぜ田名部高校の定時制は入学者数が増えているのか。他の定時制の高校と何が違うのか。
- 他の地区には、私立高校があるし、また、定時制のほかに通信制を選択することもできるが、下北地区には田名部高校の定時制しか選択肢がないため、入学者数が増えているのだと思う。
- 先日、田名部高校の定時制の生徒の生活体験発表を見学した。見学者の中には中学校の教員もおり、教員から「中学校時に不登校等色々な課題を持った生徒を指導しきれなかったが、田名部高校の定時制に入学して、立派に成長している」という話を聞いた。中学校時に色々課題があった生徒でも、田名部高校の定時制を卒業する時には、立派に成長していることが、保護者や地域の人に伝わっているという点も田名部高校の定時制の入学者数が増えて

いる要因だと思う。

### 「(3) 学校配置に当たっての留意点」

委員から、次のような意見があった。

- 「必要である」や「望ましい」の表現については、答申をとりまとめる際、文言整理をしていただきたい。
- 下北地区は地理的に他地区と比べて不利な地区であるということを強調するような記載も必要になるのではないか。

### 「5 その他(主な意見)」について

委員から、次のような意見があった。

- 学校活動の維持のために、基本的には4学級以上の学校規模が必要であるが、それを今後も維持できるとは思えない。維持できなくなった時の学校の在り方を今から検討する必要がある。

地区部会長から、「資料4については、本日の検討を踏まえ、修正内容等を地区部会長と地区部会副会長で確認し、来月の検討会議に報告する。」旨の発言があった。

### (4) 下北地区における県全体の方向性に対する意見について

事務局から、資料5について説明した。

#### 「1 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高等学校」

事務局から、資料5の「(1) 配置の考え方」の2つ目のマルの記載について、「合同会議においては、経済的要因について個別に配慮するとなると、公平性の観点から、学校配置として一つの方向性を導き出すことは難しい面があり、個々の事情への対応としては、奨学金を含む通学費補助が考えられるとの整理がなされたところである。」と補足説明があった。

委員から、次のような意見があった。

- 個々の事情への対応として、奨学金を含む通学費補助が考えられると説明があったが、このことについてはどこに記載されているのか。
- (事務局) 配置に関する部分では記載はないが、中間まとめでは高校教育を受ける機会の確保のため配置する高校が統合や募集停止となる場合には、通学支援について検討する必要があるとされている。学校の配置について、経済的要因に配慮して考えるのは難しいが、個々の経済的要因については、奨学金を含む通学費補助で対応すると地区部会の合同会議において整理された

ところである。

- 学校配置を考える際、経済的要因を考慮することが難しいということは理解したが、資料5に記載されている文章だと分かりにくいと思う。あくまでも「学校配置を考える場合」という点に絞った記載にすれば良いと思う。
- (事務局) 東青地区においても表現の修正についての意見があったところがあるので、修正を検討したいと思う。

## 「2 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等」

委員から、次のような意見があった。

- 保護者の意見は必要だと思うので、PTAは委員に入れた方が良いと思う。
  
- 委員構成として、統合を検討する協議会等の委員に首長を含めることについては、慎重になるべきだと思う。首長が協議会等の委員になっても統合するという意見にはならないと思う。ただし、首長の意見は当然聞くべきなので、個別に市町村を訪問して意見を聞くという対応が良いと思う。  
また、協議会等を構成する地域の範囲については、6地区という枠に限定せず、地域の実情に合わせて検討するということが良いと思う。ただ、下北地区においては、上北郡の一部の中学校から下北地区の高校へ進学しているが、進学者数は少ないため、下北地区だけで検討して良いと思う。
  
- 委員構成については、PTAや保護者についても記載すべきではないか。また、協議会等については、公開で開催して欲しい。
  
- 資料3附属資料の中の「開設準備委員会」の箇所に「募集停止」の記載があるが、「開設準備委員会」は統合のための委員会であるため「募集停止」の表現は不要ではないか。  
→ (事務局) 資料3附属資料については、「中間まとめ」の記載をまとめたものである。「統合」や「募集停止」の記載については、答申をとりまとめる際、再度整理し、検討したいと考えている。

## 「3 魅力ある高等学校づくりに向けて」

委員から、次のような意見があった。

- 連携について、下北地区では弘前大学下北サテライト協定を締結したところであるため、小学校・中学校・高校に加え、大学までの連携についても考えて良いと思う。  
また、高校生がむつ市の地域活性化プログラムに参加しているという事例もあることから、学校と行政との連携についても考えて良いと思う。

地区部会長から、「資料5についても、本日の検討を踏まえ、修正内容等を地区部会長と地区部会副会長で確認し、資料4と併せて来月の検討会議に報告する。」旨の発言があった。

地区部会長から、地区部会での検討を終えるに当たって、各委員から感想を求めた。

- 地域に根ざし、地域の文化をつくっている高校は、地域にとって非常に重要である。しかし、生徒数減少を踏まえた上で検討していかなければ、全部の高校が共倒れしてしまう可能性があるという思いで会議に参加してきた。本当に重要な会議に参加させていただいたと思う。
- 最初の会議で検証が大事であるという話をした。例えば、下北地区では、大畑校舎が閉校になったが、閉校したことで地域の人たちにどんな不具合があって、どう解決したか。また、解決できない問題は何であったのかを把握し、そのフォローをマニュアル化し、今後閉校した時に生かしていくということが大事である。また、この検討会議は教育の機会均等を前提として議論を進めているということなので、それが分かるような答申にして欲しい。
- 下北地区の中学校には大きい学校もあれば、小さい学校もあるが、どの生徒も進路希望が達成できるようにという気持ちで会議に参加してきた。
- 色々な問題があり、とても難しい会議であった。学校がなくなるのは寂しいが、様々な観点で考えた上で、へき地の子どもが困らないような学校配置になれば良いと思う。
- 色々な資料を見て、こんなに生徒数が減少していることが初めて分かった。非常に貴重な体験をさせていただいた。
- 田名部高校の校長に赴任する時、県教育長から、青森県が良くなるには下北が良くならなければならないと言われた。小中一貫教育に取り組む中で、教員の頑張りもあり、県学習状況調査で、長年の懸案であった中学校の成績が10市の中で下位から上位に上昇した。そのことで他の地区に刺激を与えることができたのではないかと思う。高校と連携してこれからも下北の教育のために頑張っていきたい。
- 生徒がすさまじい勢いで減少している中、県内、または全国で活躍できるような生徒を育成できるような学校ができれば良いと思っており、この検討会議がその一助になれば良いと思う。

### 3 閉会